

生活情報 有关丧主与法事的话题

以前，我们曾为大家介绍过有关“守夜及葬礼”的事宜（本刊第 26 期）。在这一期里，我们将给大家介绍“万一不幸成为丧主该怎们办”、以及日本的“法事・佛事”。敬请大家以此为参考，与家人商谈好日后的事情。

另外，据悉近来也发生了一些由于接受支援给付金的归国者，没有在事前向地方政府确认相关制度规定，因而当葬礼结束，办理善后手续时出现一些纠纷的问题。接受支援给付金的人，善后手续可能会与我们在这一期里所介绍的一般手续有所不同。因此，我们建议大家最好是在事前咨询当地的地方政府负责科或是支援商谈人员有关葬礼的各项事宜。

【万一不幸成为丧主时该怎们办】

这是谁都不愿意去考虑的问题。但是，没有人能够保证自己的亲人永远不会突然仙逝，而使自己不幸成为丧主，并为故人善后。那时，要在没有任何思想准备的情况下，做很多不曾做过的事情，并且要在短时间内决定很多事宜。尽管根据教派的不同，善后的内容也会不尽相同，但是作为家人，最好是能够掌握一个大概的流程。

有些地方在其开设的网页（“致哀”等）上，对于如何办理善后手续，举行葬礼的流程，以及由地方政府运营的殡仪馆等事宜有着介绍；有时候还会登载有关低预算葬礼制度及出借葬礼所需物品等方面的信息。敬请大家浏览确认。

1 一般葬礼的流程（这里介绍的是佛教形式的葬礼）

①刚离世

□向有关的人（家人、亲戚、朋友等）报丧

为了避免发生措手不及的事，最好是事

先商量好通知哪些人。

□守夜、葬礼・遗体告别仪式的准备

生活情報 喪主と法事のお話

以前「通夜と葬儀」（本誌26号）についてご紹介しました。今号では、「もしも喪主になったら」と日本の「法事・法要」のしくみについて取り上げます。これを参考に、先々のことを家族で相談しておくのもひとつです。

また、このところ支援給付等を受けられている帰国者、ご家族が、事前に自治体ごとの制度を確認していなかったために、葬儀が終わった後の手続き等でトラブルになることがあるそうです。支援給付等を受けられている方の場合、今号で紹介する一般的な手続きとは異なる場合が考えられます。葬儀について、事前に自治体担当課もしくは支援相談員の方に相談することをおすすめします。

【もしも喪主になったら】

あまり考えたくはありませんが、将来、親族が急な不幸に見舞われ、思いがけず喪主を務めなければならないといったことがないとは言いきれません。その時は、慣れないことを、気持ちの準備がないまま、短期間に慌ただしく決めなければなりません。宗派によって内容は異なりますが、家族でおおよその流れをつかんでおくといいでしょう。

自治体によっては、手続き、葬儀の流れ、自治体で運営している斎場等をホームページ（「おくやみ」等）で紹介しています。低予算で葬儀を行う制度や貸し出しについて案内している場合もあります。こちらも確認してみましょう。

1 一般的な葬儀の流れ（ここでは仏式の流れ）

①臨終直後

□関係者[家族、親族、知人等]へ死亡の連絡

いざというときに備え、知らせる人を

予め相談しておきましょう。

□通夜、葬儀・告別式の準備

首先,要决定好怎么举行守夜、葬礼・遗体告别仪式。要是死者生前对此留下遗言的话,一般都按照死者生前的吩咐来做。

其次,向有关宗教人士、火葬场及殡仪馆确认其时间,决定举行葬礼的时日及场地。其后,还要确保遗体安放处,并安排灵车、摆设祭坛等。

最后,要在守夜之前一决定丧主。一般来说,要是配偶离世的话,那么,其另一半就是丧主;要是另一半也已离世,或是年势很高或患病的话,那么,其长子或与其同居的孩子,便是丧主。不过,已经出嫁的女儿也可以充当丧主。

也可以把整个葬仪都委托给殡仪馆去办。只是,每个殡仪馆的费用不同,事先查询好将会比较令人放心。

②办理死亡登记并申请火化许可证 □请医生开“死亡诊断(检尸报告)”

由医生书写、盖章。为防万一,最好是复印留底。

□在地方政府的户籍窗口办理“死亡登记”

办理时限:从死亡之日算起七天之内

需要的资料:“死亡登记”(填表)、“死亡诊断(检尸报告)”、办理者的图章、死者的国民健康保险证(若生前加入了的话)

□申请“火化许可证”

在地方政府的户籍窗口办理完死亡登记后,就可以拿到火化许可证。有些地方政府不予重复发行火化许可证,因此,要注意千万不要将其弄丢或弄坏。

法律规定,不允许将死者在其死后 24 小时内火化(因传染病而死亡者除外);也不允许火化没有火化许可证的尸体。



まず、通夜、葬儀・告別式をどのように執り行うのかを決めなければなりません。故人が亡くなる前にご希望を残していれば、それに従うことが多いようです。

次に、宗教関係者、火葬場、式場の都合を確認し、日時や会場を決めます。そして、遺体の安置場所の確保や火葬、霊柩車、祭壇などを手配します。

あと、通夜の前までに喪主を決めます。一般に結婚している人が亡くなったら、その配偶者。配偶者がすでに亡くなっていたり、高齢や病気の場合は、長男や同居している子供が一般的ですが、他家に嫁いだ娘でも大丈夫です。

葬儀全般を葬祭業者に頼むこともあるでしょう。その場合、業者によって費用が異なりますので、予め調べておく心安心です。

②死亡届及び死体埋葬火葬許可証の取得

□医師から「死亡診断書(死体検案書)」をもらう

医師が記入し、押印します。念のためコピーも取っておきましょう。

□自治体の户籍担当窓口で「死亡届」の手続きをする

届け出期間:死亡の日から 7 日以内

必要なもの:「死亡届」(用紙に記入)、「死亡診断書(死体検案書)」、届出人の方の印鑑、死亡者の国民健康保険証(加入者のみ)

□「死体埋葬火葬許可証」をもらう

自治体の户籍担当窓口で死亡届の手続きをすると交付されます。自治体によっては再発行されませんので、紛失・破損にご注意ください。

法律で、死亡から 24 時間以内の火葬(感染症による死亡は例外)と火葬許可証のない火葬は禁止されています。

③守夜、葬礼・遗体告别仪式

□要准备的东西

遗像、孝衣、念珠、布施（用以礼谢和尚诵经）等。

最好是事前确认好布施金额及烧香的礼法、顺序。



□守夜

* 一般来说，大多从下午 6 点左右开始要诵经、烧香及守夜宴客（吃饭）等。当别人向自己致哀时，最好简短地应谢对方。

例如：“感谢您百忙之中前来赴丧。”

□葬礼・遗体告别仪式

* 因教派及殡仪馆的不同而不尽相同要诵经、烧香及由丧主致词等。

□出殡

遗体告别仪式结束以后，要由亲人将鲜花放在死者遗体上，还要放进死者生前喜欢的东西（随葬品）。但也有诸如眼镜、打火机等不能随葬的东西，敬请事先进行确认。亲人与死者最后告别完毕后，由亲朋好友将棺材抬进灵车。

□火化・纳骨

灵车到达火葬场后，要办理火化手续（提交“火化许可证”）。火化、纳骨完毕后，将会拿到一份盖有火化执行完毕印的“尸体下葬火葬许可证”，然后将骨灰带回家。此份“尸体下葬火葬许可证”是安置骨灰时的必要证件，因此请妥善保管。

□结算

葬仪那天负责收奠仪的人将会把 1 奠仪；2 奠仪账本、芳名册；3 唁电、悼词交给丧主，之后细算各项费用。在继承遗产、缴纳继承税时，葬仪费用属于扣除对象，因此，最好是妥善地保管收据。

③通夜、葬儀・告别式

□準備

遺影、喪服、数珠、お布施（読経のお礼）など。

お布施の金額や焼香などの作法手順を予め確認しておくとい良いでしょう。

□通夜

* 一般に午後 6 時頃からが多いです。読経、焼香、通夜振る舞い（食事）などがあります。

お悔やみの言葉をかけられたときは、短い言葉で返礼しましょう。

例：「お忙しい中お運びいただきまして、恐れ入ります」

□葬儀・告别式

* 宗派や会場によって異なります

読経、焼香、喪主の挨拶などがあります。

□出棺

告别式後、親族は遺体を花で飾り、個人愛用の品（副葬品）を納めます。眼鏡、ライター等入れられないものがあるので、予め確認しましょう。親族は故人と最後のお別れをし、近親者で棺を霊柩車に運びます。

□火葬・収骨

火葬場到着後、受付手続き（「死体埋葬火葬許可証」の提出）をします。収骨終了後、火葬執行済み印の押された「死体埋葬火葬許可証」を受け取り、遺骨を自宅等へ持ち帰ります。「死体埋葬火葬許可証」は納骨の際、必要になるので大切に保管してください。

□清算

受付担当から、1 香典；2 香典帳、芳名帳；3 弔電、弔辞を受け取り、諸経費を精算します。葬儀の費用は、遺産相続時、相続税の控除対象になるので領収書も保管しておきましょう。

这么多的事情，均由家人全权操办是非常辛苦的。一般来说，似乎请殡仪馆办理的人比较多。近来，也出现了仅由家人参加的家葬（密葬），并且拒收唁电、奠仪的葬仪形式。因此，最好是跟家人商量好怎么办葬礼。

2 法事・佛事

近来，也有人家在葬礼的第一天，就将头七法事及七七法事一并作完。有关下葬事宜，最好是与墓地或纳骨堂的管理者进行商谈。

有关法事・佛事的详细事宜，敬请阅读“各种各样的法事”。

3 各种各样的手续

葬礼结束后，还需要办理各种各样的手续。最好是列一份各项手续的办理期限及所需资料清单。

□有关返还驾照、保险证及处理死者账户

要尽早办理①驾照、②保险证、③身份证、④信用卡、⑤护照、⑥会员卡等证件的返还及退会手续，以防被坏人用于不良目的，或是从死者账户上自动划账。

此外，金融机构在确认到账户名义人已死亡时，便会立即冻结死者账户。因此，要取余款时，需要办理每一个继承人都同意取款的手续才可取款。最好是事先确认好此类手续。

□停止发放年金

向年金机构提交“年金证书”、“年金手帐”、可以证明名义人已经死亡的资料[“死亡证明”、“户口誊本（抄本）”等]以及年金享受人的居民卡副本。

□申请下葬费及殡葬、祭祀费补助

凭借保险证、死亡证明资料、葬仪费收据、印章、银行账号等，在工作单位的健康保险工会（5万日元）或地方政府的健康保

これだけのことを家族だけで行うのはとても大変なことです。一般的には、葬祭業者に頼むことが多いようですが、最近では家族だけで行う家族葬（密葬）も聞かれ、事前に弔電、香典をお断りすることもあります。家族でどうするか相談しておくとい良いでしょう。

2 法事・法要

最近では、葬儀当日に、初七日法要、四十九日法要を行うこともあります。納骨については、墓地、納骨堂の管理者と相談しましょう。

法事・法要についての詳しくは「いろいろな法要」をご覧ください。

3 いろいろな手続き

葬儀が終わったら、さまざまな手続きが必要になります。それぞれの届け出期間や、必要な提出書類のチェックリストを用意しておきましょう。

□免許証、保険証の返却及び貯金口座の手続きについて

①免許証、②保険証、③身分証、④クレジットカード、⑤パスポート、⑥会員証は早めに返却、退会の手続きを済ませ、悪用されたり、自動的に口座引落としされないようにしておきましょう。

また、金融機関では名義人の死亡を確認した時、すぐに口座取引を停止します。残金の引出の場合、相続者全員の承認を得る手続きが必要になることがありますので、予め手続きを確認しておきましょう。

□年金の停止

「年金証書」「年金手帳」、死亡の事実が分かる書類（「死亡診断書」「戸籍謄本（抄本）」など）、請求者の住民票の写しを年金機構に提出します。

□埋葬料、葬祭料の支給

勤務先の健康保険組合（5万円）、自治体

险课（1 至 7 万日元）办理手续。

这一补助并非支付所有葬仪费用，敬请注意。

□由继承人申报最后所得

死者生前若是申报了最后所得的话，那么，继承人需要在四个月之内申报自死者离世那一年的 1 月 1 号起，至死者离世那一天为止的收入并纳税。所缴税金将作为债务，从继承人所继承的财产中扣除。

【法事・佛事】

所谓“法事”，即指遗属为故人祈祷冥福（在另一个世界过的幸福），并祭奠死者的宗教仪式。

说得更详细一些，就是在日本，请僧人念经，即称为“佛事”。佛事及佛事结束后所举行的一族人聚餐，被统称为“法事”。近年来，与老一代人同居的年轻人越来越少了，因此，做法事时，整个家族的礼数习俗也不容易传承下来。中国的情况又是怎样的呢？

1 各种各样的法事

佛教对做佛事有着日期上的规定。佛事包括离世后每七天做一次、直至第四十九天的忌日佛事，还有在规定的忌辰日（离世那一天）要做周年忌辰。

佛教有着轮回转生的世界观。即人死后每隔七天，就要接受一次阎王爷的面审，之后在第四十九天判其投胎转生的世界（来世）。来世分为天道、人道及地狱道等六趣。这六趣都伴随着苦痛，因此，最为理想的是能够跳过六趣进入佛土（西方极乐净土）。所以，死者的家人为了祈祷故人面审成功，每到面审日（自离世那天算起，第 7 天、第 14 天、第 21 天、第 28 天、第 35 天、第 42 天及其 49 天）都要做佛事。其外，因为还受中国儒教的影响，还要在死者离世后的第 100 天举行淡忘失亲之痛的“百日佛事（敬百日）”。

の健康保険課等（1－7 万円）で、保険証、死亡を証明する書類、葬儀費の領収書、印鑑、振込先口座番号を持って行って手続きします。

葬儀費用の全額が支給されるわけではないので、気をつけましょう。

□確定申告を相続人が行う

故人が生前確定申告をされていた場合、死亡した年の 1 月 1 日から死亡日までの所得を、相続人が 4 ヶ月以内に申告して納めます。納税額は相続人の相続財産から債務として控除されます。

【法事・法要】

「法事」とは、遺族が故人の冥福（あの世での幸福）を祈り、供養するための宗教的な行事です。

さらに詳しく言うと、日本では、僧侶にお経をあげてもらうことを「法要」といい、法要とその後に行う食事会を含めた全体を「法事」と呼んでいます。近年、お年寄りと同居する家族が減って、法事に関する一族の習慣が伝わりにくくなっています。中国ではどうでしょうか。

1 いろいろな法要

仏教では法要を行う日が決まっています。死後七日ごとに四十九日まで行う忌日法要と、定められた命日（亡くなった日）に行う年忌法要です。

仏教では、死後生まれ変わるという考え方があります。そして、亡くなった日から 7 日ごとにあの世の王との面接日が訪れ、四十九日目に次に生まれ変わる世界（来世）が決まるとされています。来世には、天、人間世界、地獄などの 6 つの道がありますが、いずれも苦しみを伴うので、できればそれらの道を超越した仏の国（極楽浄土）に行くことが理想です。残された家族は故人の面接が成功するこ

现在，上述所有佛事都做的家庭恐怕已经很少了。一般来说，被认为比较重要的可谓是头七（死后第 7 天）和七七（死后第 49 天）两个佛事。很多家庭选择与葬礼一道做头七，而在七七这一天请亲朋好友一道埋葬死者骨灰，并在做完佛事之后，为死者烧香、并一起吃饭以缅怀死者。

周年忌辰是为了祈愿已经到达西方极乐净土的故人能更加勤奋地修行而做的。从离世那天起，满一周年时所做的佛事，被称为一周年忌辰。此后，按照将离世年数减去一年的算法，还要做三周年忌日（从死者离世那天算起满两周年），七周年忌日（满六周年），十三周年忌日（满十二周年），十七周年忌日（满十六周年），二十三周年忌日（满二十二周年），二十七周年忌日（满二十六周年），及三十三周年忌日（满三十二周年）。这一系列佛事做到第 33 年忌辰，就算结束了。

在繁忙的现代社会，从七周年忌辰起，佛事的规模就渐渐变小了。其后，据说一般只是在遗属或亲戚之间做做而已。不管这么说，佛事的做法会根据地区及教派的不同而不尽相同。因此，最好是咨询一下您周围的人。

2 接到佛事请帖的话

在回信的明信片上写明出席与否，并寄还给对方。因有事而不能参加的话，最好是打电话、或是通过书信形式向对方表示歉意。此外，一般来说，要将作为供品（一般用其作奠仪）的现金，通过挂号信的方式寄给对方；或是寄去花或水果等供品以示诚意。若有什么不明之处，敬请向支援商谈员或您身边的人咨询。

① 加祭奠时的服装

无论佛教形式、神道形式还是基督教形式的祭奠，到七七那一天为止，参加者都必须穿简略的丧服※ 1；而一周年忌日以后所举行的年忌仪式，参加者只要穿简略的礼服※ 2 或颜色暗淡的衣服即可；七周年忌日以后，只要衣

とを願って、面接日（亡くなった日を含めて数え、7 日目、14 日目、21 日目、28 日目、35 日目、42 日目、49 日目）に法要を営みます。他にも、中国の儒教の影響を受けて、故人の死後百日経つと泣くのを卒業するという意味で行う「100 日目の法要（百日忌）」があります。

現在では、これらの法要をすべて行う家はあまり無いかもしれません。一般的に重要とされるのは、初七日（7 日目）と四十九日（49 日目）の法要でしょう。初七日はお葬式といふしよに済ませてしまうケースが多いのですが、四十九日の法要は、この日にお骨をお墓に納めることも多く、知人や友人を招いて、法要の後、焼香し、故人を偲びながら会食します。

年忌法要は、仏の国に行った故人が一層修行に励んでくれることを願って行います。亡くなってから満 1 年目の法要を一周年忌と言います。これ以降は、亡くなってからの年数から 1 年引く計算で、三回忌（満 2 年目）、七回忌（満 6 年目）、十三回忌（満 12 年目）、十七回忌（満 16 年目）、二十三回忌（満 22 年目）、二十七回忌（満 26 年目）、三十三回忌（満 32 年目）があります。法要は三十三回忌をけじめに一応終わります。

忙しい現代社会では、七回忌頃から少しずつ法要の規模が小さくなり、後は遺族や親戚だけで行われるのが一般的だそうです。いずれにせよ法要のやり方は地域の慣習や宗派によって異なるので、周囲の人に尋ねてみるとよいでしょう。

2 案内状を受け取ったら

返信ハガキに出席の有無を記入して返送します。用事で行けない場合、できれば電話か手紙でお詫びを伝えるといいでしょう。また、一般的には現金書留などでご供物料（葬儀での香典にあたる）を贈るか、お花や果物など

着的颜色暗淡，即使是便装也不成问题。而逝者的直系家属，到三周年忌日为止，基本上都需要穿丧服参加祭奠。

※1 简略的丧服：一般来说，指除了黑色以外，还有藏青色或灰色等颜色暗淡的西装或连衣裙。选择丧服时，最好是避开面料有光泽、透明或带图案的；而那些没有任何装饰、样式简单的为佳。此外，鞋和长筒丝袜也最好是统一穿黑色。

※2 简略的礼服：出席红白喜事时所穿的正式服装，被称为“礼服”。学生制服也可算是礼服（丧服）。比较不拘泥于形式的简略式礼服，男性为暗色西装或非正式西装；而女性则并非必须是黑色，只要颜色暗淡，什么样的礼服都是可以的。

② 谢仪袋

外面写有“御供物料”的谢仪袋，适合于任何宗教形式的祭奠。而佛教形式的专用谢仪袋，则有“御仏前”及“御香料”等（七七以前的净土真宗以外的谢仪袋为“御霊前”）；神道形式的专用谢仪袋为“御玉串料”、“御神前料”及“御神撰料”等；基督教形式的专用谢仪袋为“お花料”等。

至于花纸绳（印在谢仪袋或系在谢仪袋上、近似于缎带的细绳）的颜色，如果是佛教形式的话，那么七七以前都必须黑白两色，七七以后则为黄白色；三十三周年忌日、五十周年忌日须为红白色。神道形式的话，花纸绳的颜色须为双银色。基督教形式则是将谢仪放进白色信封里，不能有花纸绳装饰。

顺便说一句，至于谢仪金额，将根据每个人与逝者生前的关系及年龄的不同而不尽相同。一般地说，大约在 5,000 日元到 10,000 日元之间。当天，和尚念经后有时要安排吃丧饭，这样的话，就需要在包钱时将丧饭的金额也考虑进去。

(T)

のお供え物を贈ります。わからないことは、支援相談員さんなど身近な人に尋ねてみてください。

① 法事の服装

仏式、神式、キリスト教式とも、参列者は四十九日までは略式喪服（※1）、一周忌以降の年忌法要は略式礼服（※2）か地味な服装、七回忌以降は地味であれば平服でも良いよう

です。遺族は、三回忌までは喪服が基本です。※1 一般的には、黒のほか、濃紺やグレーなどの地味目の色のスーツやワンピースです。光沢のあるものや透ける素材、柄物は避け、飾りのないシンプルなものを選びます。靴やストッキングは黒で統一すると無難

※2 冠婚葬祭の正装を「礼服」といい、学生は制服も礼服（喪服）になります。比較的形にこだわらない略式礼服では、男性はダークスーツやインフォーマルスーツ、女性性は黒でなくても地味な礼服であれば良いでしょう。

② のし袋

のし袋の表書きは「御供物料」がどの宗教でも使えます。仏式独自としては「御香料」「御仏前」（四十九日以前の浄土真宗以外は「御霊前」）など、神式としては「御玉串料」「御神前料」「御神撰料」など、キリスト教式としては「お花料」などです。

水引（のし袋に印刷もしくはかけてあるリボンのような紐）の色は、仏式が四十九日までは黒白、四十九日以降は黄白、三十三回忌、五十回忌は紅白、神式が双銀、キリスト教式は白い封筒に入れて水引はかけません。

ちなみに金額の目安は、故人との関係や年齢にもよりますが、5,000 円から 10,000 円が一般的なようです。僧侶の読経のあと食事がふるまわれることがあるので、その分を考慮した金額を包みます。

(T)